

2023(令和5)年度 舞洲スポーツイノベーションプロジェクト 実施報告

1. 事業趣旨:

大阪港の人工島「舞洲」は、プロスポーツチームを中心に、民間企業や大阪市、大学、学生が協働し、「舞洲プロジェクト」を形成して、スポーツの振興やスポーツ産業の発展と舞洲の活性化・都市魅力の向上を目指して活動している。

今回は、大阪市を本拠地とするプロバスケットボールチーム「大阪エヴェッサ」の事業課題に対し、ビジネスプランを提案・実施する「第3回舞洲スポーツビジネスコンテスト」に挑戦した。

<p>テーマ: 舞洲スポーツイノベーションプロジェクト</p> <p>実施日時: 2023(令和5)年9月18日(月・祝)～2024(令和6)年2月18日(日)の約5か月間</p> <p>実施場所: ・武庫川女子大学 中央キャンパス「メディアホール」 (オリエンテーション、企画プレゼン会・交流会、最終プレゼン大会) ・おおきにアリーナ舞洲(現場視察) ・Asueアリーナ大阪(企画実践) ・上記に加え、オンラインによるWS等を実施(以下プログラム概要のとおり)</p> <p>コーディネーター: 上原 光徳氏(株式会社 立成社 代表取締役) 武田 隼氏(株式会社 立成社 アドバイザー)</p> <p>メンター: 松尾 信之介氏(大阪学院大学 経済学部 准教授)</p> <p>参加学生数: 5大学8名 (大学別) 大阪学院大学1名、大阪国際大学1名、大阪商業大学2名、 大阪電気通信大学3名、森ノ宮医療大学1名 (学年別) 1年生:1名/3年生:7名</p> <p>企画・運営: 特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪</p> <p>共 催: 舞洲プロジェクト(大阪エヴェッサ、オリックス・バファローズ、セレッソ大阪、大阪市)</p>

2. プログラム概要:

日程		時間	場所	詳細
2023年	9/18 (月・祝)	14:00～17:00	武庫川女子大学 メディアホール	オリエンテーション ・ビジネスコンテスト概要説明・スケジュール確認 ・大阪エヴェッサ担当者よりクラブ紹介および課題テーマ説明 ・取組課題の検討・決定、チーム分け
	9/30 (土)		オンライン	企画立案「オンライン WS」
	10/8 (日)		おおきにアリーナ舞洲	大阪エヴェッサ ホームゲーム視察
	10/21 (土)		オンライン	企画立案「オンライン WS」
	11/11 (土)	14:00～16:00	武庫川女子大学 メディアホール	企画プレゼン会・交流会 ・チーム発表とフィードバック 審査員:大阪エヴェッサ・大阪市・協賛企業
	11/25 (土)		オンライン	実践課題確認 ・大阪エヴェッサより課題提案 ・チーム別に分かれ、取組課題の決定 ・チーム別・取組課題に関する質疑応答、今後の組み立て討議
	12/16 (土)		オンライン	企画実践準備(オンラインWS)
2024年	1/6 (土)		オンライン	企画実践準備(オンラインWS)

	1/20	(土)		オンライン	企画実践準備(オンラインWS)
	2/7	(水)		Asueアリーナ大阪	企画実践 「大阪エヴェッサホームゲーム」準備～企画実践～撤収
	2/18	(日)	14:00～ 16:00	武庫川女子大学 メディアホール	最終プレゼン大会 ・実践結果プレゼン・審査結果発表 審査員:大阪エヴェッサ・大阪市・協賛企業

3. 課題とチームによる企画提案

※①～⑤のいずれかを選択。

課題:①集客

②プロモーション

③ファンクラブ

④MD(マーチャンダイジング)

⑤SDGs

チーム名	企画内容
MO <課題①>	チームが取り組む新B1ライセンス取得のための条件(平均入場者数4,000人)をクリアするための企画として、潜在顧客である在日外国人団体にアプローチして新規来場を増やすと同時に、今後のリピート(再来場)に繋げる。

4. コンテスト結果

出場4チーム中、本プロジェクトから出場したチームが最優秀賞を受賞し、大阪エヴェッサをはじめ、共催企業等から高評価を得ることができた。

<参考> 出場チーム(計4チーム)

大阪産業大学 経営学部ゼミ 1チーム、大阪成蹊大学 経営学部ゼミ 1チーム、

武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部ゼミ 1チーム、大学コンソーシアム大阪 1チーム

5. 最終プレゼン大会の様子



舞洲スポーツイノベーションプロジェクト2023 参加者アンケート

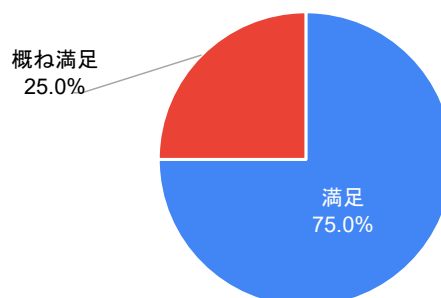
参加者数 5大学8名(回答者数 4名、回答率50.0%)

1. プログラム全体の満足度

(単位:名)

満足	3
概ね満足	1
満足できない点があった	0
不満	0

プログラム全体の満足度



上記と回答した理由

【満足】

- ・最後までやり切れたため。
- ・スポーツビジネスを取り組んで行く上での現実的な大変さ、進行の難しさ、成功した時の達成感を感じることができたため。
- ・最優秀賞が取れたため。

【概ね満足】

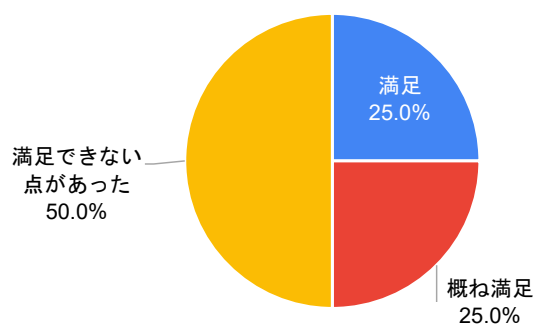
- ・今回のプログラムの体験をしたことによって企業の考え方や企画から実行するまでの難しさなどを感じることができたため。

2. 自身が所属したチームの活動について

(単位:名)

満足	1
概ね満足	1
満足できない点があった	2
不満	0

自身が所属したチームの活動について



上記と回答した理由

【満足】

- ・全員で役割分担し、協力して活動できたため。

【概ね満足】

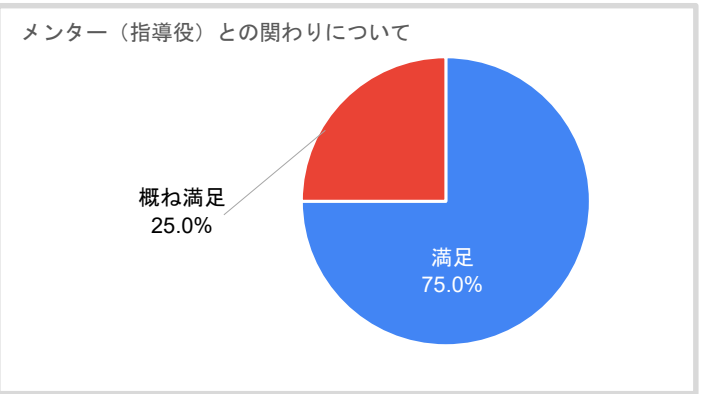
- ・メンバーが半分減ってしまったが最後まで続けることが出来たため。

【満足できない点があった】

- ・なかなかうまく話を進めることができなかったため。
- ・メンバーとのコミュニケーションが難しかった。

3. メンター（指導役）との関わりについて（単位：名）

満足	3
概ね満足	1
満足できない点があった	0
不満	0



上記と回答した理由

【満足】

- ・ 普段は自分たち主体で活動し、大事な時に適切なアドバイスをくださったため。
- ・ 自分たちがやろうとしていた一つ一つのことに細かくアドバイスしてくださったため。
- ・ 適切なアドバイスと相談に親身になっていただいた。

【概ね満足】

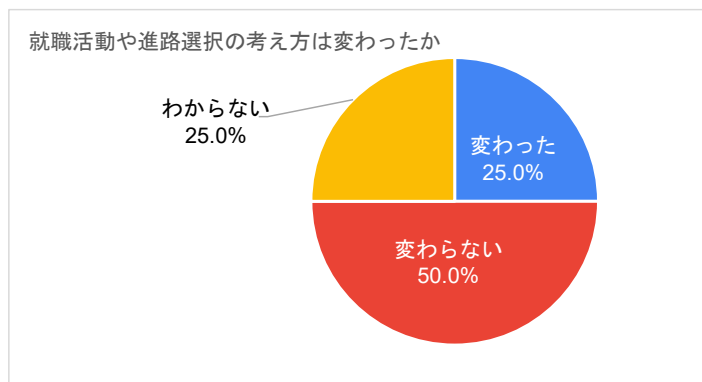
- ・ アドバイスが的確で、チームの現状や進行具合をみて適切に対応していただいたため。

4. 本プログラムに参加してよかった点や自身が成長したと思う点

- ・ アイディアを出して実行する難しさや計画など、もっと中身を充実することが大切だということが参加して分かった点。
- ・ このプログラムに参加したことで他大学の人たちと出会い、最後までやってみれば良い結果が出せるかもしれないとやり切ることの大切さを改めて感じられたのが良かった。
- ・ 参加して良かったことの一番は最優秀賞を取れたこと。また最優秀賞を取れなかったとしても、最後に残ったメンバーたちでなんとかプロジェクトを形にすることができ、やり遂げることができたこと。
- ・ 人間関係と自分たちの実践力。

5. 就職活動や進路選択の考え方は変わったか（単位：名）

変わった	1
変わらない	2
わからない	1



上記で「変わった」と回答した場合、どう変わったか

- ・ 強い積極性を持った人が集まったところで仕事がしたいと思った。

6. その他、プログラムの感想・意見

- ・ プロジェクトを辞退したいと相談してしまうことがあったが、その際に一度考える時間を作ってくださいありがたかった。あの時すぐに辞めていたらプロジェクトをやり遂げた達成感も、最優秀賞を取れた喜びも知らないまま終わっていた。何か思い詰めることがあってもすぐに投げ出すのではなく、一度距離を置いて冷静に考えることの大切さを学ぶことができた。このプロジェクトを通して大きく成長できたと思う。